



# 特殊分類別在庫指数

# 大分県鉱工業指数作成要領(平成27年基準)

平成27年=100

ウエイト	鉱工業								生産財
	最終需要財	投資財			消費財			生産財	
		資本財	建設財	消費財	耐久消費財	非耐久消費財			
10000.0	1330.0	854.6	198.6	656.0	475.4	36.8	438.6	8670.0	
品目数	60	21	9	3	6	12	1	11	39
原指数									
平成26年	99.0	100.8	97.8	108.8	94.5	106.3	86.7	107.9	98.8
27年	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
28年	98.8	98.4	96.3	100.6	95.0	102.1	93.5	102.8	98.8
29年	93.7	94.5	93.8	97.9	92.5	95.8	82.1	96.9	93.6
30年	102.7	98.3	97.9	81.3	103.0	98.9	74.8	100.9	103.4
29年IV期	101.5	102.2	97.9	100.1	97.2	110.0	81.3	112.5	101.4
30年I期	105.7	94.6	95.1	84.7	98.3	93.7	74.9	95.3	107.4
II期	96.4	96.7	94.9	78.9	99.8	99.9	73.3	102.1	96.3
III期	106.2	100.9	100.0	77.8	106.7	102.5	75.6	104.8	107.0
IV期	102.5	100.9	101.7	83.9	107.1	99.5	75.4	101.5	102.7
31年I期	102.9	101.9	93.4	92.6	93.7	117.0	72.4	120.8	103.0
平成30年	105.4	89.7	93.5	83.1	96.6	82.9	75.0	83.6	107.8
2月	98.2	99.6	96.4	83.1	100.4	105.5	72.1	108.3	98.0
3月	96.1	107.6	97.3	80.3	102.5	126.0	70.6	130.6	94.3
4月	98.4	93.4	93.2	77.2	98.1	93.8	73.4	95.5	99.2
5月	94.6	89.1	94.2	79.1	98.8	79.8	75.9	80.2	95.5
6月	107.0	101.0	102.2	81.2	108.6	98.7	76.3	100.6	107.9
7月	105.2	99.6	100.7	76.7	107.9	97.6	75.0	99.5	106.1
8月	106.4	102.1	97.0	75.5	103.5	111.2	75.6	114.2	107.0
9月	98.3	104.1	102.5	79.6	109.4	107.1	75.3	109.8	97.4
10月	101.1	103.1	102.8	86.3	107.8	103.8	75.9	106.1	100.8
11月	108.1	95.4	99.8	85.7	104.0	87.6	75.1	88.7	110.0
平成31年	108.1	97.9	91.9	91.3	92.1	108.8	74.6	111.6	109.6
2月	103.1	98.7	92.7	91.7	93.1	109.3	73.0	112.4	103.8
3月	97.4	109.0	95.7	94.9	95.9	133.0	69.5	138.3	95.6
4月	108.6	130.2	109.9	150.2	97.7	166.8	67.7	175.2	105.3
令和元年	104.8	123.2	110.8	151.1	98.6	145.5	67.4	152.1	102.0
対前年同月比(%)	6.5	31.9	18.9	95.7	0.5	55.1	▲8.2	59.3	2.8
季節調整指数									
29年IV期	97.8	100.2	95.2	96.4	95.3	109.2	81.0	111.5	97.5
30年I期	103.3	97.4	98.1	87.0	100.7	96.2	76.0	97.6	104.0
II期	101.9	98.5	96.0	81.7	100.3	102.0	74.0	104.4	102.6
III期	106.2	98.8	98.6	77.9	104.9	99.9	74.9	102.1	107.2
IV期	99.3	98.2	99.1	78.9	106.0	96.5	74.2	98.4	99.7
31年I期	101.4	105.0	96.8	96.0	96.5	119.6	72.9	123.6	100.5
平成30年	103.2	93.8	98.1	83.8	101.8	86.2	76.3	87.2	104.6
2月	102.4	104.4	99.4	86.6	101.8	110.7	73.3	114.1	102.3
3月	103.2	108.9	98.5	85.3	101.9	124.0	72.0	128.4	102.7
4月	101.8	97.1	96.9	81.0	101.9	98.2	74.6	100.3	102.6
5月	100.8	89.6	92.7	78.9	97.2	83.8	75.4	84.6	102.4
6月	108.9	98.3	97.9	78.7	103.5	99.8	75.3	102.0	110.0
7月	104.2	98.2	99.7	77.7	106.2	96.5	74.7	98.4	105.1
8月	105.6	99.9	98.3	77.3	105.1	103.5	74.7	106.0	106.4
9月	95.9	100.1	99.9	77.2	107.3	99.4	74.5	101.7	95.5
10月	99.7	97.7	99.7	80.3	106.1	95.6	74.2	97.4	100.1
11月	102.2	96.7	97.7	79.2	104.7	94.4	74.0	96.2	103.4
平成31年	101.3	95.9	93.3	94.3	92.9	101.3	75.5	103.2	100.9
2月	101.0	102.0	97.5	91.9	98.8	112.0	73.6	115.3	101.1
3月	101.8	117.1	99.5	101.8	97.9	145.5	69.7	152.4	99.4
4月	116.6	131.7	111.2	159.5	97.2	164.1	69.0	172.3	114.7
令和元年	108.5	128.1	115.1	158.6	102.4	152.3	68.5	159.8	105.5
対前月比(%)	▲6.9	▲2.7	3.5	▲0.6	5.3	▲7.2	▲0.7	▲7.3	▲8.0

## 1 基準時

平成27年を基準年とする。したがって、指数値は平成27年の平均を100.0とした比率で示され、ウェイトは平成27年の大分県の産業構造によることとなる。

## 2 分類

分類は、原則として日本標準産業分類(第13回改定)(平成25年10月統計基準設定)に基づく業種分類と、採用品目をその用途により財別に格付けした特殊分類の2方法による。

### (1) 業種分類

業種分類は、原則として平成22年基準での分類を踏襲しているが、利用上の便宜から若干の変更を行っている。具体的には、「繊維工業」を「その他工業」に統合した。

### (2) 特殊分類

特殊分類は、鉱工業の採用品目を経済的な用途により分類したものであり、その定義は次のとおり。

①最終需要財 鉱工業又は他の産業に原材料として投入されない最終製品。

ただし、建設財を含み、企業消費財を除く。投資財と消費財の合計。

・投資財 資本財と建設財の合計。

・資本財 主として家計以外で購入される財で耐用年数1年以上の財。

・建設財 建築用と土木用の合計。

・消費財 主として家計で消費される財。

・耐久消費財 耐用年数1年以上で比較的購入単価が高い財。

・非耐久消費財 耐用年数が1年未満、又は比較的購入単価が安い財。

②生産財 鉱工業及び他の産業に原材料として投入される製品。

ただし、輸出用の中間生産物、企業消費財を含み、建設財を除く。

### 3 採用品目

採用品目は、基準年における付加価値の大きなものから、業種ごとに重要性、代表性、系列の信頼性資料収集及び調査継続の可能性、地域の特殊性などを考慮して選定した。

生産及び出荷指数の採用品目数は106品目、在庫指数の採用品目数は60品目である。

### 4 総合指数の算出

鉱工業指数における総合指数の算出については、基準年次の各品目の固定ウェイトで加重平均するラスバイレス方式が使用されている。

### 5 ウェイト

ウェイトは、生産指数については付加価値額ウェイト、出荷指数は出荷額ウェイト、在庫指数は在庫額ウェイトである。

ウェイトの算定にあたっては、「平成28年経済センサス-活動調査」、「経済産業省生産動態統計調査」等を基礎資料としている。

ウェイトの計算は、まず各業種別のウェイトを算定し、ついで品目別のウェイトを算定するが、この際非採用品目のウェイトは原則として各業種ごとに採用品目ふくらましを行い、なめし革・同製品・毛皮製造業等の採用系列のない業種については製造工業全体にふくらましを行っている。

### 6 季節調整

月次系列(原指数)には、自然的要因や制度的・社会的要因などから生ずる、1年を周期とした季節的な変動が含まれている。このような季節変動を取り除くために、過去の系列から季節変動のパターンを抽出し、これを季節指数として原指数の調整を行う。(原指数を季節指数で除して得られたものが季節調整指数。)

季節指数の算出には、センサス局法X-12-ARIMAを採用している。

### 7 指数計算

指数計算には、経済産業省が開発した新世代統計システム(地域システム)を使用している。